

社会貢献



伊藤忠商事は地球的視野に立つて「良き企業市民」として果たすべき役割を自覚し、地域社会、国際社会との調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献しています。

地域社会及び国際社会と持続可能な社会を実現するため、5つの重点分野からなる「社会貢献活動基本方針」を定めて活動しています。

社会貢献活動基本方針



1. 世界の人道的課題

伊藤忠商事は、グローバルに事業を行う企業として、世界における人道的課題に積極的にに関わり、豊かな国際社会の実現に貢献します。



2. 環境保全

伊藤忠商事は、環境保全活動を積極的に行い、社会の持続的な発展に貢献します。



3. 地域貢献

伊藤忠商事は、良き企業市民として地域社会との良好な関係を構築し、地域社会との共生を図ります。



4. 次世代育成

伊藤忠商事は、次世代を担う青少年の健全な育成を支援する活動を行い、心豊かで活力ある社会の実現に貢献します。



5. 社員のボランティア支援

伊藤忠商事は、社員一人ひとりが行う社会貢献活動を積極的に支援します。

社会貢献の主な活動：東日本大震災支援活動

2011年3月に発生した東日本大震災は、東日本全域に甚大な被害をもたらしました。これからも伊藤忠商事では、長期的な視野で復興支援に全力を挙げていきます。

2012年度の主な活動トピックス

■ 2012年6月 子どもの本100冊助成

株主の皆様とともに「子どもの本100冊助成」が、被災地のボランティア団体に届き始めました。この活動は、株主様宛情報の電子化にご承認いただき、節約できた用紙代・郵送料等を、伊藤忠記念財団が行う文庫助成に協力するものです。当社も同額を寄付して、2012年度は15セット（1セット＝100冊）の児童書が被災地の子供たちへの読み聞かせなどに活用されています。



■ 2012年9月 東日本大震災から1年半の募金活動

9月11日から21日まで、復興支援の社員募金を伊藤忠の各拠点で行いました。役員、社員、海外駐在員やグループ会社社員まで多くの方からの善意、及び会社からの同額マッチング分で合計607,230円が、公益社団法人 日本国際民間協力会の「東北 子供の夢応援団プロジェクト」に活用されます。詳細は下記URLを参照ください。

<http://www.kyoto-nicco.org/project/support/presentation/itc-coope.html>



■ 2013年3月 福島県いわき市の蒲生卓也氏作品展を開催

伊藤忠青山アートスクエアでは「絵画展PEACE ART未来へ」(3/5-11)を開催し、東日本支援クレオンネット主催による「大地震、津波、子どもたちの絵が語る心の記憶」の絵画展のほか、福島県いわき市で障害を乗り越え、アーティストとして活躍される蒲生卓也さんの作品展を同時開催、応援メッセージボードなど会場全体で応援しました。



■ 2013年3月 東日本大震災から2年の募金活動

東日本大震災から2年経った3月11日、伊藤忠商事東京本社で行った募金活動では、昼休みの1時間に¥546,890の善意が集まりました。さらに全国の支社支店、海外、労働組合の協力も得て募金の総額は904,867円になりました。募金総額と同額を会社がマッチングします。震災直後と変わらぬ“忘れない”気持ちは、公益社団法人日本国際民間協力会、公益財団法人伊藤忠記念財団を通じて、被災地での学校再建/青少年支援等に活用されます。また、募金活動の他に、社員食堂にて被災地食材の献立提供、被災地産品の販売支援や、動画「3.11伊藤忠商事の震災支援」の上映も行いました。



■ 2013年3月 「東北 子どもの夢応援団プロジェクト」への支援

伊藤忠商事は、公益社団法人 日本国際民間協力会のプログラム「東北 子どもの夢応援団プロジェクト」の趣旨に賛同し、この度創設した「伊藤忠子どもの夢ファンド」を通じて、岩手県陸前高田市の中学校の部活動や少年野球チームに関する支援を行います。詳細は下記URLを参照ください。

<http://www.itochu.co.jp/ja/csr/news/2013/130311.html>



■ 2013年3月 「石巻線マンガタンライナー」運行協力

3月23日、石ノ森萬画館リニューアルオープンに合わせて、石巻市とJR東日本との共同事業による石巻線マンガタンライナーの出発式が行われました。故石ノ森章太郎氏のマンガキャラクター「サイボーグ009」や「仮面ライダー」などが描かれた車両を見ようと、ホームには多くの子どもや家族連れが集まりました。マンガタンライナーが観光客誘致につながり、被災地復興の一助となることを願い、伊藤忠商事はキャラクターのシール製作費用の全額を石巻市に寄付しています。



社員のボランティア活動支援

2011年5月から東日本大震災復興支援ボランティアとして、社員がボランティア活動に参加しやすくするため、交通費/現地滞在費等を会社から補助する制度を実施し、2013年3月末までに延べ216人が利用しました。

■ ボランティア活動報告vol.1 第9回 2012年8月9日～12日

参加者の声



物流・保険ビジネス部
大谷 哲生

被災地の現実、仲間との出会い

東北の震災は余りにもショッキングな出来事で、以前から何か復興のお手伝いができないかと思っていましたが、被災現場の凄まじさを今回自分の目で見て、改めて復興の難しさ・厳しさを実感しました。作業内容は埋まっている田んぼの側溝の掘り起しで、2日半掛けて数十メートルを仕上げました。同じ伊藤忠グループにしながら、今まで接点のなかった、仕事も年齢も異なる13人の仲間と今回一緒に作業したり食事をともにしたことにより、伊藤忠の中には私の知らなかった素晴らしい仲間がたくさんいたのだなどの嬉しい発見もしました。さらに多くの方の参加をぜひお勧めします。

■ ボランティア活動報告vol.2 第13回 2012年12月13日～16日

参加者の声



非鉄・金属原料部
井上 侑美

次につなげていくこと

3度目の陸前高田だった。2011年12月に開墾した場所には「みんなの家」が建ち、2012年6月にガレキを引きずり下ろした斜面の袂には、グラウンドができていた。一回の作業でできることは本当に小さく、心身ともに疲れてくると、この仕事に意味はあるのか？と考えてしまう。それが今回、「みんなの家」で地元の方々が集まって暖をとっていたり、グラウンドで子供たちがキャッチボールをしている姿を見て、確実に次につながっていることが分かり、嬉しくなった。まだまだ復興には程遠い。被災地を忘れず、引き続き足を運ぼうと思う。

■ ボランティア活動報告vol.3 第14回 2013年2月14日～17日

参加者の声



住生活・情報事業統括室
春木 輝美

東北への思いふたび

震災から2年、復興があまりに遅々としていることに驚かされました。それでもひたすら復興を待ちながら、仮設住宅に住み、日々の生活に追われている人々がまだ大勢います。ボランティア作業後、「本当に助かったよ」と被災者の方がつぶやかれたのが身にしみました。今回も活動を通じて、人との出会い、人の縁をとて強く感じることができました。会社は被災者の方にたくさんお話を聞く機会を用意してくれました。お話をされる方にとってはまだ生々しい当時の記憶。それでも必死に伝えてくれようとしていました。忘れないでいてほしいという思いからです。そして、立ち去る私たちのバスが見えなくなるまで、手を振ってくれました。思わず、また来ます！と答えずにはいられませんでした。

社会貢献の主な活動：世界の人道的課題

災害支援義援金寄付

国内外での大規模災害発生に際し、人道的見地より、義援金拠出・物資の提供を行っています。現地の支店・事務所とも連絡をとりながら2012年度は下記の支援を実行しました。

■ 最近の義援金拠出例

フィリピン ミンダナオ島台風	¥10,000,000
アメリカ東海岸 ハリケーン	(米国にて)US\$50,000
中国 四川省地震	(中国にて)30万人民元

WFP 国連世界食糧計画への支援

世界の飢餓・貧困問題を少しでも解消するため、国連の食糧支援機関であるWFP 国連世界食糧計画の公式支援窓口である国連WFP協会の評議員となり、さまざまな活動に参加しています。2012年12月5日～6日、東京本社B1Fロビーにて、WFP 国連世界食糧計画に対する募金活動を実施し、365,261円の募金が集まりました。会場ではWFPの活動を紹介するパネルの展示や、先着でチャリティサンタ人形のプレゼントも行いました。たくさんの方々のご協力で集まった募金は、WFPを通じて世界の飢餓撲滅活動に役立てられます。

また、2013年5月に横浜で開催された子供の飢餓の撲滅キャンペーンである「ウォーク・ザ・ワールド」に伊藤忠商事及び伊藤忠グループ会社社員220名が参加しました。その他、東京本社で、WFPの活動を紹介するパネル展や募金活動を定期的に実施しています。



子供の飢餓の撲滅キャンペーン「ウォーク・ザ・ワールド」に参加

途上国と先進国の食のアンバランスを解消する「TABLE FOR TWO」(TFT)

「TABLE FOR TWO」(「二人の食卓」)は、開発途上国が抱える飢餓と、先進国が抱える肥満や生活習慣病の同時解決に向けて、時間と空間を越えて食事を分かち合うというコンセプトの社会貢献プログラムです。

2007年10月に日本で創設され、伊藤忠商事では翌年4月より東京・大阪・名古屋の社員食堂で、他社に先駆けて本格導入されました。

2013年度も社員食堂のある東京本社では健康に配慮した、TFT対象メニューを毎日提供しています。そのメニューを社員が購入すると、1食につき20円が寄付されます。これに会社も同額を寄付するマッチング・ギフト方式によって、20円が加算されます。つまり、1食につき40円がTABLE FOR TWOのプログラムを通じて、NPO法人国際連合世界食糧計画WFP 協会に寄付され、開発途上国の子どもの学校給食になっています！



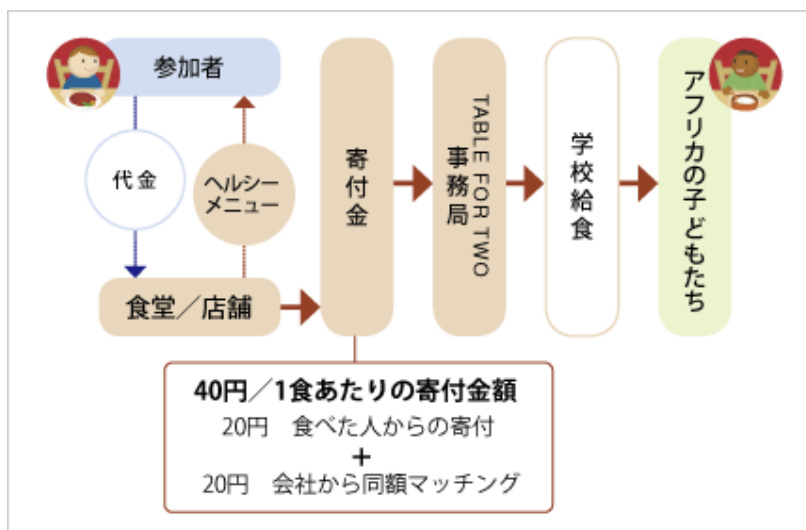


TABLE FOR TWO ガイドライン

1. カロリーが730kcal (680～800kcal) 程度
2. 栄養バランスが適正
3. 野菜が多め

伊藤忠商事東京本社で好評だったTABLE FOR TWOメニューBest3



1位: 豚肉と野菜のオイスターソース炒め
496kcal



2位: 野菜たっぷりブルコギ
597kcal



3位: ノンフライささみマヨカツ
500kcal

社会貢献の主な活動：環境保全

ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

伊藤忠は、2008年に創業150周年を迎え、これを記念する社会貢献活動として社員アンケートにより要望の多かった「森林保全」をテーマとした本プログラムの実施を決定しました。

2009年度から公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF)と協業し、ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラムを実施しています。

伊藤忠が支援する森林再生地のボルネオ島北東部のマレーシア国サバ州北ウルセガマでは、WWFが現地サバ州政府森林局と連携して森林再生活動を行っており、そのうち967ヘクタールの再生を支援するものです。これは一般企業の植林活動支援としては最大規模の面積です。絶滅危惧種に指定されているオランウータンの生息地域であることから、このプログラムを ITOCHU Group: Forest for Orang-utanと名付け、伊藤忠グループ各社と協力して推進しています。

また、グループ会社も含めた社員ボランティアツアーを毎年実施し、現地植林活動(植樹、草刈など)や野生動物の観察等に現地へ定期的に訪れています。

詳しくはP81をご覧ください。



苗木の植樹

マニラ麻農園リハビリテーション・プロジェクトを支援

1912年に開設したマニラ支店が100周年を迎えるのを記念し、6月にフィリピン中部のソルソゴン州農村地帯においてマニラ麻農園リハビリテーション・プロジェクトの支援について、フィリピン繊維産業開発局及び地元の農業組合であるSt. Ann's Family Service Cooperativeと協定を締結しました。2014年3月までに実施予定の90ヘクタール分(約14万4千本)のマニラ麻の植付と栽培に必要な資金の全額である200万円を拠出します。また、本プロジェクトを通じて年間18トンのCO2吸収が見込まれています。



社会貢献の主な活動：地域貢献

「伊藤忠メディカルプラザ」設立で、神戸医療産業都市の発展へ寄与

公益財団法人神戸国際医療交流財団に対し、国内最大級の医療クラスターである神戸医療産業都市に2014年夏に開設予定の国際医療交流を目的とした施設「伊藤忠メディカルプラザ」の建設資金として5億円を寄付しました。東南アジアを中心とした諸外国の医師や医療関係従事者へ教育・技術トレーニング等の人材育成や、海外からの研修生受入事業、大学などと連携した医療機器開発など各種研究事業等を行う予定です。



完成予想図

「伊藤忠青山アーツスクエア」をオープン

2012年10月に東京本社に隣接するシーアイプラザに、CSRの拠点として「伊藤忠青山アーツスクエア」をオープンしました。アートを通じた「次世代育成」、「地域貢献」、「国内外の芸術や文化の振興」を目的に、みずみずしい感性あふれる優れた作品展や国際交流の懸け橋となるイベントなどを、さまざまな文化が息づく街、東京・青山から発信していきます。

今後も、伊藤忠は、アートを通じて様々な社会的課題に取り組み、定期的に展覧会を実施することによって、地域の生活文化創造への貢献を目指していきます。

伊藤忠青山アーツスクエア ホームページ

<http://www.itochu-artsquare.jp/>



■ ねむの木のこどもたちとまり子美術展

10月26日より企画第一弾の「ねむの木のこどもたちとまり子美術展」が開催されました。オープニングセレモニーには、本展示会の主催者である学校法人ねむの木学園園長であり美術展のディレクターである宮城まり子さんやねむの木学園のこどもたちも参加し、晴天の中、大変なごやかなセレモニーとなりました。



■ 五美術大学交流展を開催

関東圏の五つの美大(女子美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、日本大学芸術学部、武蔵野美術大学)の有志40名が創作した絵画、映像や立体作品等、現役学生ならではの感性溢れる瑞々しい作品を、2013年1月18日から2月23日まで展示しました。

明日の日本を担う次世代の学生に社会への発信という挑戦の場を提供することで、彼らの成長やその先にある夢の実現への一助となることを願って、本企画が開催されました。

(本展のポスターも、参加学生がひと手間加え、すべて異なったデザインで個性が光る作品となりました)



■ 「江戸切子若手15人展」開催

3月16日から、伊藤忠青山アートスクエアでは、東京の江東区を中心に、伝統と革新の間で魅力的な作品を作り続けている江戸切子作家15人の新作の展示会が開催されました。伝統工芸を継承する若手職人の技と美に触れ、日本人が紡ぎだした文化の素晴らしさを伝える展示会になりました。



認定NPO法人国境なき子どもたち (KnK) のフィリピンでの青少年支援施設サポート

開発途上にある国々のストリートチルドレンや大規模災害の被災児等を支援する認定NPO法人国境なき子どもたち (KnK) を通して2009年12月のフィリピンのマニラ郊外に青少年自立支援施設「若者の家」リニューアルオープンに係る支援を行い、2012年には子供たちの将来の自立支援に繋がる職業訓練所として新たな改築が行われました。今回、同施設の地下や屋根を改修することで、実践的な技術習得のための職業訓練コースの拡充が可能になります。現在も、この施設を通し、年間約1,000名の青少年へさまざまな支援が行われています。



「若者の家」



当社マニラ支店100周年の式典に参加する「若者の家」の子どもたち

フィリピンからのご報告 (KnKのHPより抜粋)

2001年11月よりスタートしたKnKフィリピンの「若者の家」は、伊藤忠商事株式会社のご支援により2009年12月に新設されました。ここでは育児放棄された幼少の子どもたちが共同生活を送りながら、スタッフによる家庭的な愛情と適切なケアを受けています。子どもたちは「若者の家」に来る前は極度の栄養不足にあったことから年齢よりも極端に身体の小さい子が少なくありません。しかし、現在は規則正しい生活の中でバランスのとれた食事をとり、健康状態もかなり改善されています。

「若者の家」の施設内で、コンピュータ技術と縫製の訓練を実施し、スラム地域の青少年の就業を支援しています。また、スラムの中で手工芸を中心とした収入創出活動も開始しており、若者たちがアクセサリーの製作・販売を行うなど経済的な自立へとつなげています。



KnKのメンバーと

ロビーコンサート

2012年7月23日、東京本社にて第21回伊藤忠ロビーコンサートが開催され、700人強の社員・OBとご家族、地域の皆様が来場されました。また毎年ご招待しているアガペセンターの皆様を今年もお招きし、コンサート前には司会の竹下景子さんと小林会長との交流会を開催しました。皆さん、1年に1回のこの日を楽しみにしていたとのことで、溢れる笑顔で交流、記念写真撮影をされ、ニューヨークシンフォニックアンサンブルの演奏も非常に喜んで頂きました。また、竹下景子さんと小林会長のミニトークでは、被災地の皆さんの頑張りのや、伊藤忠記念財団の絵本による支援などが話題にのぼりました。ロビーコンサート21年目となるニューヨークシンフォニックアンサンブルの演奏も素晴らしく、アンコールも2曲披露され、音楽が全ての人・地域共通の言語であることを改めて感じる事が出来ました。



青山通りの地域清掃活動を実施

東京本社近辺で、社員による地域清掃活動を実施しています。地域社会の一員として、地元自治会や近隣の他企業の皆さんと協力して清掃や啓発物配付を行っています。



社会貢献の主な活動：次世代育成

伊藤忠記念財団への支援

伊藤忠商事は、1974年に公益財団法人伊藤忠記念財団を設立して以来、青少年の健全育成を目的とした社会貢献活動を継続して進めてきました。

現在は、「子ども文庫助成事業」（日本人学校、補習校への図書助成を含む）、「電子図書普及事業」を活動の柱に、子どもたちの健全な成長に寄与する活動を行っています。

株主の皆様と行う「子どもの本100冊助成」についてはP69をご参照ください。



グアテマラ日本人学校の生徒たち

「キッズニア東京」に環境パビリオンをオープン

伊藤忠商事は2012年4月に、こども向け職業体験施設「キッズニア東京」に環境パビリオン「エコショップ」をオープンしました。「エコショップ」では伊藤忠が参画する世界的な環境活動「MOTTAINIAキャンペーン」での環境教育のノウハウを活かし、子どもがエコ活動を体感できるように、環境素材を使ったマイ風呂敷、エコバッグ、マイ箸づくりなど自分だけのオリジナル商品を製作できます。

また、こども1人の参加ごとに、植林用の苗木1本分の費用がケニアの植林活動である「グリーンベルト運動」に寄贈される仕組みとなっており、2012年度は約3万人の子ども達がアクティビティに参加してくれたおかげで、3万本の苗木をケニアに寄贈することができました。

今後も、子どもに人気の高い施設である「キッズニア東京」に、グローバルな視点で環境保全について楽しく学べる場を提供することで、持続可能な社会を担う青少年の育成を目指してまいります。



ケニアへの苗木贈呈セレモニー

夏休み子ども教室

8月22日、東京本社10階で「夏休み子ども教室」を開催し、青山小学校、近隣の子どもたち、社員家族など27名の子どもたちが参加しました。1992年から毎年、夏休み環境教室として実施してきましたが、21回目の今年は株式会社みずほフィナンシャルグループと共催で、更に内容を拡充しました。第1部ではお金の仕組みの授業やクイズ、お札を数える練習、一億円を持つ体験、第2部ではMOTTAINAIキャンペーンの説明、プレオーガニックコットンの紙芝居、エコバッグ作成、また最後にはカブトムシのプレゼントと2時間で盛りだくさんの内容となりました。

特に、1億円の重さを当てるクイズの直後に本物の1億円が登場したときには、保護者の方からも歓声が上がり、一人一人1億円を持ち上げて、熱心に写真撮影をされていました。また第2部の授業では、「MOTTAINAIを自分の手で表現できて嬉しかった」

「楽しくバッグが作れてもっとエコしたいと思った」「作っている人の苦勞を知ったので、少しでもプレオーガニックコットンを使っている製品を買いたい」といった声が聞かれ、楽しみながら、今後自分なりに環境問題を考え、行動する良いきっかけにもなったようです。また最後のカブトムシプレゼントでは40匹のカブトムシを前に子どもたちが目を輝かせ、夏休みの楽しい思い出にもなりました。

※プレオーガニックコットン：オーガニックの認証取得に到るまでの移行期間に収穫された綿花。

【参考】プレオーガニックコットンプログラム：<http://www.preorganic.com/about/>



社会貢献の主な活動：社員のボランティア支援

伊藤忠では年間最長5日間のボランティア休暇を取得できる制度や、休日・昼休みなどに参加できるプログラムなども開催することで、社員の意識醸成に努めています。

会社が独自支援プログラムを立ち上げる等、特に推奨しているボランティアは以下の2つです。

【海外】ボルネオ植林体験ボランティア

【国内】東日本大震災復興支援ボランティア

ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

2009年から公益財団法人世界自然保護基金ジャパンと協業し、ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラムを実施しており、毎年グループ会社の社員や海外で働くナショナルスタッフなどと共に、社員ボランティアツアーを組んで定期的に現地を訪れています。

詳しくはP81をご覧ください。



その他社員が参加できるボランティア・プログラム例

■ 飲料自動販売機による「チャイルド・ケモ・ハウス」の支援

日本初の小児がん専門治療施設「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営をサポートするため、東京・大阪本社内にケモ・ハウス仕様の飲料自動販売機を設置し、両ビル内に設置されるすべての飲料自動販売機の売上の6～10%相当の金額を寄付。



■ 神宮球場(青山)にて伊藤忠野球教室を開催

青少年育成の一環として障がいのある子供達に、さまざまなことに挑戦する機会を与えたい、自分の可能性を見出す機会を創出する手助けをしたいとの考えのもと、2007年より野球教室を開催しています。

元ヤクルトスワローズ投手の矢野講師より、スポーツマンシップのお話や基礎的な動きなど、家庭での練習ではなかなか身につかない基本から、ノックのとり方や投球練習などの実践までを教えてください。指導のボランティアとして、伊藤忠商事相互会野球部に所属する社員もボランティアとして参加しています。参加した子供からは「初めての道具を使ってうれしかったです。これからもっと練習したいです。」などの感想があり、子供達をはじめ保護者など参加者からも大変好評をいただき、毎年社員ボランティアも増加しています。



■ 絵本を届ける運動(東京/大阪両本社・名古屋支社、金沢支店)

日本語絵本に現地語のシールを貼り、東南アジアの子どもたちに贈る活動。
東京本社では、毎週(木)昼休みに5F社友室を借りて活動中。



■ 「スワンペーカーリー」のパン販売

スワンペーカーリーとは、障がいを持つ人々に適正な賃金での雇用を促進する目的で、ヤマト財団により設立されたペーカーリーで、2008年5月より、毎週水曜日に「スワンペーカーリー」のパンを東京本社の社員食堂にて販売。



■ ふれあいのネットワーク 自然観察会

新宿御苑自然観察 4月初旬、セミの羽化観察会 8月初旬、横浜入観察会 10月初旬に実施。



■ ふれあいのネットワーク 音読部会 開催:第2土曜日

伊藤忠グループ社員やOB・OGの有志で渋谷の高齢者施設を訪問し、音読・合唱などを通じて交流を行う。



150周年記念社会貢献事業



ITOCHU Group Forest for Orang-utan

1. 背景

世界的に問題となっている熱帯林の著しい減少・劣化、及びそれに伴う生態系の破壊は、1992年のブラジルで開催された地球サミットでも指摘されていましたが現在も止まっていません。また、森林の破壊が地球温暖化の原因である二酸化炭素増大の原因のひとつともいわれています。

ボルネオ島(カリマンタン島)はマレーシア、インドネシア、ブルネイの三カ国にまたがる熱帯林地帯で、日本の約2倍もの面積がある、世界で3番目の大きさの島です。

アマゾンなどと並び、生物多様性の宝庫といわれるボルネオ島も最近では開発が進み、自然再生力だけでは生態系保全ができない

程、傷ついた熱帯林も出てきました。今回のプログラムは、これらの傷ついた熱帯林再生の手助けをするものです。伊藤忠が支援する森林再生地のボルネオ島北東部のマレーシア国サバ州北ウルセガマでは、世界的な自然保護団体であるWWFが現地サバ州政府森林局と連携し、約2,400ヘクタールの森林再生活動を行っています。伊藤忠グループはそのうちの967ヘクタールの再生を支援するものです。これは一般企業の植林活動支援としては最大規模の面積です。当地は、絶滅危惧種であるオランウータンの生息地でもあり、森林再生によりこのオランウータンを保護するのみならず、ここに生息する多くの生物を守ることに繋がります。

2012年11月末時点で、約690ヘクタールの植林が完了しました。967ヘクタールの全植林は2014年度に完了予定で、維持管理作業は2016年度まで継続されます。

熱帯林の再生には、長い時間がかかります。5年間だけでは十分ではありません。しかしこれをひとつの契機として、社員やグループ会社とも協力し、動物たちが安心して暮らせる森の再生を目指していきます。



2. プログラムの内容

寄付先	WWFジャパン
期間	2009年度より2013年度まで(当初5年間であったが現地の活動は2016年度まで継続予定)
場所	ボルネオ島(マレーシア国サバ州北ウルセガマ地区)
面積	967ヘクタール(正方形に例えると、およそ3km x 3kmの面積)
寄付金額	総額2億5000万円(グループ会社よりの寄付含む)
植樹	植樹は、現地の在来樹種のフタバガキ科が中心となり、現場状況にあった樹種が植えつけられます。5年をかけて植樹及びメンテナンスを実施します。
社員ボランティア活動	グループ会社含めた社員ボランティアによる現地植林活動(植樹、草刈など)や野生動物の観察等を実施中

ボルネオ便り 第4回

I TOCHU Group: Forest for Orang-utan の活動の地、ボルネオ島・マレーシア国サバ州にて、社員並びにグループ会社社員が東京、仙台、台湾の各地から計18名集合して、第4回ボルネオ植林体験ツアーを実施しました。現場では、灼熱の太陽が照りつける厳しい環境の中、参加者たちは1人当たり10本～27本の苗木を汗まみれになって植林しました。現地の魅力溢れる自然とツアーの概要をご紹介します。



植林体験ツアー

■ ツアー日程(5泊6日)

1日目	11月22日	成田(深夜便)～クアラルンプール
2日目	11月23日	クアラルンプール～コタキナバル経由～ラハダトゥ ホテル着後WWFセミナー
3日目	11月24日	ラハダトゥ～北ウルセガマ植林体験、スカウ(イブニングクルーズ & ナイトクルーズ)
4日目	11月25日	スカウ(モーニングクルーズ)～サンダカン(散策)～セピロック
5日目	11月26日	セピロック(オランウータンリハビリテーションセンター見学)・森林局施設散策 ～サンダカン～クアラルンプール(深夜便)～成田
6日目	11月27日	成田空港到着

■ 2012年11月時点の植林状況



2012年11月時点で、全体967ヘクタールの70%にあたる約690ヘクタールの植林が完了しています。長雨や干ばつなどの悪天候が作業の妨げとなり植林業者の作業効率が上がっていない面もありますが、現状では2014年度まで植林作業が続けられ、維持管理作業は2016年度まで継続されます。それ以降は自然生長に任せることになります。



2010年に苗木を植樹しました。



2011年は約2mに成長しました。



2012年には
約4mまで成長しました

■ 植林体験ツアーレポート

2日目(11月23日)

長時間のフライト・乗継を経てホテル到着後、直ちに会議室でWWFマレーシアのスタッフよりボルネオ島の失われゆく森林の現状について講義をうけました。



WWFマレーシアスタッフの講義に参加者皆が真剣に聞き入る様子



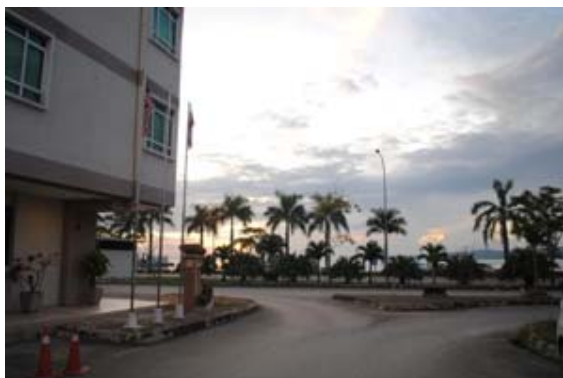
歴史背景を踏まえて分かり易く熱心に語りかける伊藤忠OBの谷山氏

伊藤忠商事でご活躍された後にコタキナバルで生活中的OB(元専務)谷山氏もご夫婦で駆けつけて下さり現地の植林と文化につき講義を頂きました。参加者は深く現状を理解することができました。

3日目(11月24日)

気温約35度程度。灼熱の太陽の日差しの中で19名が6班に分かれて作業し、1人当たり苗木10本～27本も植林しました。全員が汗にまみれてクタクタになるまで植林作業をしました。

植林現場の中にオランウータンの巣の跡を見つけた参加者が、自分たちが植えた苗木が10年後にオランウータンの居着ける木に成長する様に祈りながら作業を続けている姿が印象的でした。



朝、専用バスでホテル出発



4WDジープに乗り換えて植林地へ向かう



植林現場での説明風景



いよいよ植林開始



ボード前に記念植樹



植林ラインに沿って奥地に踏み入り汗を流す

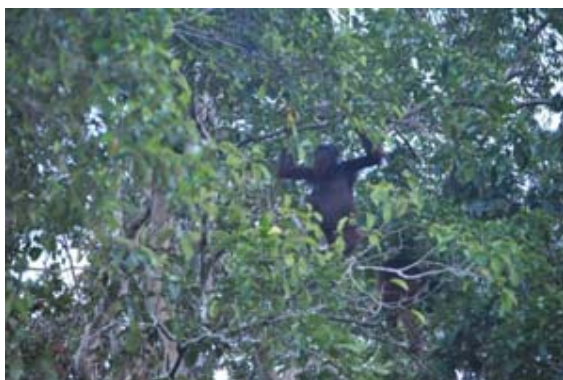
植林終了後、バスでホテルに移動。スカウのホテルからイブニングクルーズに出発した参加者はテングザル、オランウータン、トカゲ、カワセミ等の野生動物に遭遇しました。夕食後にも再びナイトクルーズに出発。夕方と夜とは、観察できる野生動物の種類が変わります。夜の川下りは幻想的な風景が広がり、一同息をのみながら、星空の下での風景を楽しみました。



午後には移動して、スカウのホテル到着後、
イブニングクルーズ開始



ついに野生のオランウータンに遭遇！！



しばらく進むと別の2匹の野生のオランウータンに遭遇！！
ボートからわずか50～60mの距離。



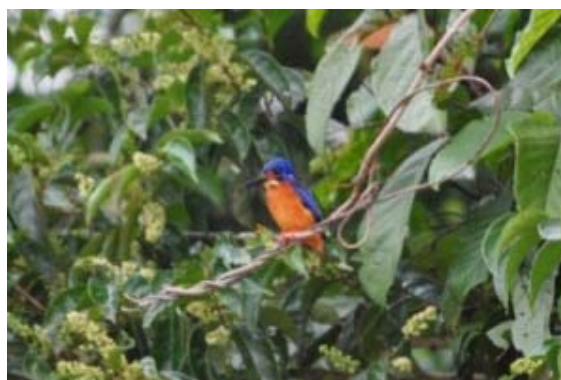
ボートから一同見上げる様子

4日目(11月25日)

昨日の興奮も冷めやらぬまま、モーニングクルーズへ出発。その後、ボートで約2時間半の移動中にも野生動物達との出会いがあり、参加者は期待していた以上の驚きを感じていました。



早朝に出発



心奪われる色彩のカワセミ



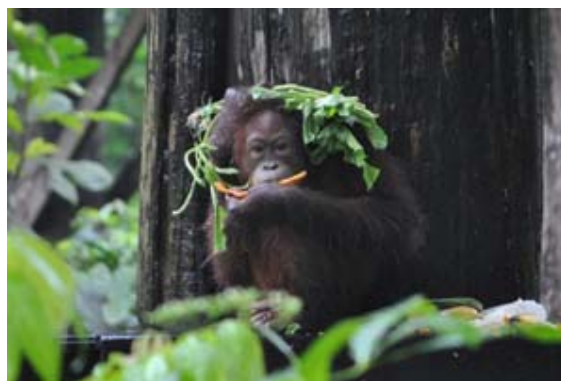
木にへばりつくオオトカゲ(体長約1m)



高速のボートでサンダカンへ移動。強い風が体に直接あたるが、赤道直下の気温では心地よい。

5日目(11月26日)

前夜から大雨が降り、午前中にセピロックオランウータンリハビリテーションセンターを雨の中訪問。親を密猟などで失って、孤児となり保護されたオランウータンは、同センターで人間の手助けを受けながら自ら生活していくために必要な技術を教わり、その後、自然に返されます。参加者一人一人が、森林再生と生態系保全の繋がりとその重要性について深く考える貴重な時間となりました。



通路の柵の上(触れられる距離まで)にオランウータンがやってきます



センター内の資料館にて説明パネルを見つめる参加者達





午後は、森林局が管理する森林保護区内にある
The Rainforest Discovery Centreを訪問



保護区内は、本来の熱帯雨林の姿が維持されており、数種類
の木々が隙間なく立ち並び豊かな生態系を育んでいます



センター内は、熱帯植物や鳥が生育し、
散策できるようになっています



空港に向かう途中でサンダカンの墓地にも立ち寄りしました。
有名な日本人墓地は(写真は華人墓地)更に奥にある細い
路地を進んだ後にあるほんの小さな一角でした。

雨雲を寄せ付けない?! 晴れ男&晴れ女の元気パワー!



WWFジャパン
サポーター事務局
法人・募金グループ
小坂 恵

皆様のご協力の下、今回の植林ボランティア活動も無事に終了することができました。誠にありがとうございました。

到着後すぐのレクチャーでは、疲れた様子は無く、むしろ活動に参加する意欲が溢れていました。プレゼンテーション後には積極的なご質問があり、本プロジェクトに対する関心の高さを感じました。

この時期の現地は雨季ですが、伊藤忠グループの方はかなりの“晴れ男&晴れ女”なのでしょう。昨年同様に、プロジェクト現場にいる間は青空が広がり、照りつける太陽の下、気温は35℃を超えましたが、笑顔を絶やさず真剣に取り組まれました。特に、苗木に話しかけながら、丁寧に植えていた方が心に残っています。植林活動終了後には、満足感に満ちたお顔を拝見でき、スタッフも徐々に緊張感が解れて、写真撮影など、皆様と楽しい交流の時間を過ごせました。

今回のツアーを通して、ご参加いただいた皆様には、森林再生プロジェクトの必要性、内容、取り組みにあたっての様々な課題と、日々のスタッフの活動等をご理解いただいたのではないかと思います。ぜひ、この体験を、同僚の方や、ご家族・ご友人等にお伝えください。皆様のお話が、地球環境保全について考えるきっかけとなることを期待しています。